

第2回伊賀市総合計画審議会 議事概要

開催日時	2026（令和8）年7月7日（火） 13:00～17:00
開催場所	本庁舎 4階 会議室 405
出席委員	岩崎 恭彦 （【1号委員】三重大学人文学部） オチャンテ 村井 ロサ メルセデス （【1号委員】桃山学院大学人間教育学部） 朴 恵淑 （【1号委員】三重県地球温暖化防止活動推進センター） 成底 正好 （【2号委員】公募委員） 荒井 恵美子（【3号委員】男女共同参画ネットワーク会議） 市川 寛 （【3号委員】伊賀市地域公共交通活性化再生協議会） 来光 美希 （【4号委員】 — ）
欠席委員	
議事日程	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）令和8年度外部評価について （総合計画施策 No.）（施策の見出し（キーワード）） 2－11 公共交通 2－6 環境 4－4 商工・労働 4－5 観光 4 閉会 5 その他
議事概要	1 開会 （事務局）：定刻となりましたので、ただいまから、令和8年度第2回伊賀市総合計画審議会を始めさせていただきます。 会議及び議事録公開の確認 （事務局）：会議の公開ですが、「伊賀市審議会等の会議の公開に関する要綱」第3条により、会議を公開し、会議の傍聴を認めておりますので、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いいたします。 また、会議録についても公開させていただきますので、ご了解よろしくをお願いいたします。 資料の確認 （事務局）：資料は事前に郵送しております施策評価シートです。

会議成立の確認

（事務局）：会議の成立でございますが、委員の半数以上の出席をいただいておりますので、伊賀市総合計画審議会条例第6条第2項に基づき会議は成立しております。

それでは、お手元の事項に沿って進めさせていただきます。

2 あいさつ

（事務局）：それでは、会長よりごあいさつをいただきたいと存じます。

＜会長＞：前回に引き続きよろしくお願いします。

（事務局）：ありがとうございました。以降の進行は、会長にお願いいたします。

3 議事

＜会長＞：流れを説明します。5分間ほどで担当課から説明していただき、25分間で質疑を行います。質問していただき、5分ほどで外部評価シートを記入していただきます。

評価のポイント（1）効果検証の適正性については、施策評価シートのCHECKの欄で前年度の実施事業を踏まえた効果検証や課題の洗い出しができているか、できていればA、一部見直しの必要があればB、できていなければCとなります。

（2）事務事業改善案の妥当性については、CHECKで指摘されている課題に対して改善案が示されていればA、できていなければCやBです。

（3）施策の進捗状況については、KPIの達成度かどうか、施策全体の達成度どうかを評価いただきます。

個人で外部評価シートを書いていただき、グループとしての評価を確定していきます。今日はどの評価をしたかを表明していただき、そのうえですり合わせをしたいと思います。

それでは担当部局さん、説明をお願いします。

— 地域力創造部「2-11 公共交通」説明 —

＜委員＞：ハード面の取組が中心ですが、ソフト面の記載がないので評価しづらいです。また、こういったメンバーで連携して事業に取り組んでいるのかが見づらいので、見える化していただき、施策を評価できる仕組みをお願いします。

利用者が何を目的に利用しているのか、泊まりに来たのか、観光に来た

のか、来る前と来た後がどのように繋がっているかを分析した方が良いと思います。

＜地域力創造部＞：事務事業③「鉄道網」では、市外からの誘客を進めるために観光分野と連携をすることに着目はしていますが、細かいところまでは記載していません。仕組みとしてできていない部分もありますので、参考にさせていただきます。公共交通では横断している項目が多いので、しっかり密に連携しながら取り組んでいきます。

＜委員＞：同じメンバーで良かったのか、という部分が評価につながっていないといけないと思います。構成の枠を広げていくべきかどうかということも含めて評価できれば良いと思います。

＜委員＞：事務事業②「バス」について、令和7年度にはバスの利用者が減っていますが、バスの利用者数は減っていくということが続くと考えていますか。このことは予想通りか予想外のことですか。

＜地域力創造部＞：この指標は行政バスの利用者数です。全体的なトレンドとしては減少です。現状は維持を目標としています。行政バスは小学生が通学で使っていただいています、母数が少ないので小学生の通学定期で影響が出ます。令和6年から7年は児童数が多いところが減ったので減少しています。このことも踏まえ、目標としては著しく減らないように利便性や接続を皆祖いながら続けていきます。

＜委員＞：利用者は減っていきますが、地域の若者も高齢者も移動してないということはないと思います。歩きか自家用車かも含めて共生を考えているのか、利用者が減る一方なら対策を考えないといけません。今後の見通しを教えてください。

＜地域力創造部＞：行政バスのエリアは来訪者より住民利用が多く、人口も縮小傾向にあるので利用者は減少しています。移動手段はマイカーですが、マイカーに頼り過ぎないように移動できるようなサービスの提供と、公共交通への意識を持っていただくような取組を続けていきます。

＜委員＞：この状況は年々悪くなりますが、公共交通の仕組み自体の再構築を意識し

	た目標設定をどこかで入れていかないといけません。ずっと数値が悪いままになると思います。 ＜地域力創造部＞：KPI をどうすべきか考えないといけないと思っています。 ＜委員＞：沿線の観光地との連動なども数値を測っていくと良いと思います。 ＜委員＞：どれだけ利用者数が少なくても、なくなっては困るというものなら、利用者数ではなく満足度などの指標でも良いと思います。 ＜会長＞：基本事業①「交通デザイン」について、めざす姿「総合的な公共交通ネットワークを形成します」に対して、KPI が「交通系 IC カードの利用率」である意図を教えてください。 ＜地域力創造部＞：交通系 IC カードは、ネットワーク自体の連動性をこれからは IC カードなどの電子的なものの利便性を上げることで、利用者が使いやすいようにしていきたいということで、ネットワークの一つの形として IC カードが使えるよう状態になっていれば、ネットワークを形成できているという解釈で設定をしています。 ＜会長＞：カードの利用率は、相互乗り入れを図るための 1 つのサブ的な指標として設定するなら分かりますが、そこに行きつくまで色んな段階があり、各段階でどういうふうに進んでいくとネットワーク形成にたどり着くかが分かるよう、多段階に指標を設定いただくと良いと思いました。 地域公共交通計画の策定が事務事業ですので、総合計画と地域公共交通計画の連動性を測っていただく必要があると思います。地域公共交通計画にも指標があると思います、まずは現行計画の目標達成を令和 9 年度までに目指していただくことかと思いますが、そのあたりの位置づけについてはどう考えていますか。 タイムスケジュールで言うと現行計画の計画期間中なので、現行計画の目標を達成いただくことが向こう 3 年間でやっていただくこと、残る 1 年は 3 年間で目標達成のためにやってきたことの中で出来なかったことの反省を踏まえ次期計画に反映していただくことだと思います。 総合計画と地域交通計画の連動をどう担保していただくかも、KPI の設定で工夫できると思いますので、その点も検討できると思います。 ＜委員＞：成果から見ると進んでいるという評価になります。1 年目で 10% 近く上が
--	---

	ったことは評価できます。来年には目標値を達成できていると思っています。政策立案者の立場からはどう考えているのかが知りたいです。 ＜地域力創造部＞：概ね想定している普及スピードです。ただ、どんどん新しい決済方法が出てきますので、KPI としてもふさわしいものを考えたいですし、色んな手段にも対応して、広めていく方法も考えたいと思います。 ＜委員＞：シェアサイクルなどの2次交通の充実は今後の課題だと思います。バスも地域の中で走っているものが多く、鉄道からつながりが少ないので、うまく連携できたら良いと思います。 交通系 IC カードも、色んなシステムが出てきていますので、いずれ KPI を見直すのかなとも思っています。そのままの数値でいくのかかどうか、随時見直していただけたらと思っています。対応していただきたいと思っています。 ＜委員＞：支払いが電車の中や駅など色々あり、観光で伊賀に誘うとき、電車での利用を誘いづらいので、支払方法を分かりやすくしてほしいです。 ＜地域力創造部＞：たまに使いとどうすればいいのかわからないと思いますので、初めて使う人向けにも情報発信をしていきたいと思っています。 ＜委員＞：基本事業②「バス」を除いて、他の基本事業では令和 10 年を待たず目標達成できていますが、設定が甘くないかとも思いますので、目標を達成してから今後 3 年この指標とするのでしょうか、見直していくのでしょうか。 ＜地域力創造部＞：コロナ禍で上がっていくことが想像できない中で目標を設定した部分もありますので、目標値を見直すべきだと考えています。 ＜会長＞：時間になりましたので、担当課の方には席を外していただこうと思います。本日はありがとうございました。 （１）効果検証の適正性につきましては、A 評価が 3 人、B 評価が 2 人、C 評価が 1 人です。 ＜委員＞：前向きに検討し、柔軟に対応できる体制が整っていると思います。A 評価としました。
--	--

	＜委員＞：頑張っていると思いますが、アンケートのような指標の方が、頑張りが評価されるのかと思いました。 ＜委員＞：施策評価シートを見ているだけでは分かりづかったのですが、説明を受けて、考えられていると思います。A評価としました。 ＜委員＞：前向きに動いているとは思いましたが、まだまだ課題もあると思います。B評価としました。 ＜会長＞：効果検証は最高の余地がありますが、対面で伺うと、KPIの柔軟な見直しを計画されていると確認できましたのでA評価とします。 （2）事務事業改善案の妥当性については、A評価が3人、B評価が2人、C評価が0人です。 ＜委員＞：改善しようとしていることは分かりますが、課題が大きく、簡単にできるのか疑問なのでB評価としました。 ＜委員＞：理解はされていて、悩んでいるのも分かりますが、見方を変えて取り組まないといけないと思いB評価としました。 ＜委員＞：関係者も多く、難しい面もありながらうまく対応してくれているのかなと思いました。 ＜委員＞：着実に取り組んでいただいていると思いました。 ＜委員＞：B評価もありとは思いましたがA評価としました。基本事業の目標値が甘かろうと、3つで達成している。達成したら次のことを考えていますし、妥当性においては3/4達成できていますがA評価としました。 ＜会長＞：A評価とします。CHECKはたくさん書いているが、ACTIONでは、改善案ではなく方向性が示されています。中長期的な大きな課題だと思いますが、いつまでなのかまで踏み込んでACTIONに具体的なことを書いていただきたいと思います。ただ、その都度改善を図られているのは全体としてA評価としますが、ACTION欄については次回から具体性を持って書いていただきたいです。 （3）施策の進捗状況については、A評価が2人。B評価が3人、C評価が3人なので、B評価とします。
--	---

＜委員＞：だめだからB評価なのではなく、次につなげてほしいという期待値も込めてです。

＜委員＞：進捗していますが、見直しが毎年必要なのでそこをやっていただきたいです。

＜委員＞：組織づくりを含め、もう少し進んでほしいと思いB評価としました。

＜会長＞：他の施策ではKPIを上方修正して提出してもらっているものもありましたので、公共交通でもしていただいてしかるべきだったのかと思います。事業の進捗は評価できますが、達成しているものは見直していただきたいということでB評価です。

協議会の構成や運営、計画の策定など個々の部分は一生懸命取り組んでいただいているのですが、根幹の部分がどうなっているかが見えにくかったです。

では、続いての施策、説明をお願いします。

— 人権生活環境部「2－6環境」説明 —

＜委員＞：2030年に向けて、2013年比でのCO2の削減目標を教えてください。令和3年度に比べて、令和10年度では27%の削減だと思いますが、国の基準では46%減、県の47%減に比べると少ないのではないですか。目標値が2030までどのくらいで、順調なのか、頑張らないといけないのか教えてください。

＜人権生活環境部＞：伊賀市では国の目標を目指しています。2030年度の排出量の数値はありますが、それまでの年度の数値がないため、環境省のCO2排出量カルテの数値を成果指標としています。公表年度の2年前が最新値になりますので、令和10年度には、令和8年度の数値が上がってきます。

＜委員＞：国は2035年には63%減なので、どんどん数値が上がっていくことを見込んでほしいです。

見直しの予定はありますか。

＜人権生活環境部＞：伊賀市は2035年度で60%減を目指していますので、個別の取組の見直しを行うことで、指標は中長期的な目標に向かっていく

ということでこの指標としています。

＜委員＞：水質について、BOD が 100%から 87%になっていますが、令和 7 年度が良くない理由は何ですか。

＜人権生活環境部＞：昨年度、1 地点だけ BOD の基準値をオーバーしたので未達成です。

＜委員＞：今後また 100%に戻りますか。

＜人権生活環境部＞：そこに向けて啓発活動をしたいです。浄化槽が進んでいけば改善すると思います。

未達成であった地点は一般の浄化槽が普及しており、合併浄化槽への転換を進めていますが、浄化槽設置となると敷地の関係もありは進みにくいところです。

啓発を重点的に進めていきます。

＜委員＞：最近、農地でソーラーパネルが広がっていますが、自然保護と再生可能エネルギーのバランスについてなにか指標は検討していますか。

＜人権生活環境部＞：太陽光の設置に関する指標は考えていません。ただ、環境省の自治体カルテの中で、FIT、FIP といった固定買取制度で登録された太陽光パネルがどれだけ使われているかは数字で追えます。環境破壊に関して、国で基準を設け、設置を推奨していますが、色んな問題も起きていますので、県も条例の見直しをしている中では、伊賀市でも地域住民の合意形成が得られる取り組みをしていきますが、指標は取っていません。

＜委員＞：不法投棄も多い状況です。何か指標に入れることができたら良いと思います。ゴミ拾いのボランティアも、指標になると、PR にもなると思いますのでご検討いただきたいと思います。

＜会長＞：基本事業②「生活環境」で、区域外の一般廃棄物の搬入について書かれていますので、2-6「環境」と2-7「廃棄物」で、方向性と具体的な事業の結びつきが、整理できていないのではないのでしょうか。見直していただいても良いかと思います。

＜委員＞：出会いの川掃除についてはどこですか。

＜人権生活環境部＞：環境美化になりますので基本事業①「環境保全」だと思います。

＜委員＞：年齢層的に運用が難しいので、今後、周辺地域の人々の生活に直結する課題だと思います。

＜人権生活環境部＞：こどもたちも巻き込み、交流という観点もあると思います。一つの目線で考えると厳しいですが、いろんなことを含めて考えてもらいたいと思います。

＜委員＞：深いところで作業することがあるので、運用が難しいと思います。

＜人権生活環境部＞：農業用水に沿って草刈りなどをすることだと思いますが、それがないと農業に影響があるので、作業に伴うごみ拾いなどは環境分野です。

＜委員＞：水質に関して、具体的にどのような啓発を行っているか教えてください。

＜人権生活環境部＞：毎年実施している水質検査の結果をホームページに掲載しています。

＜委員＞：出前講座ではどのようなことを啓発していますか。

＜人権生活環境部＞：蓄積しているデータを用いて、河川の水質状況を説明する講座を開いたことがあります。

＜委員＞：環境教育をしている団体はありますか。

＜人権生活環境部＞：伊賀市環境保全市民会議がありましたが解散しました。34年の歴史を持っていた団体でした。ウォッチングやウォーキングをしていました。把握していないだけで地域におられると思います。

＜委員＞：太陽光パネルの廃棄についてはどう考えていますか。

＜人権生活環境部＞：だいたい20年で廃棄になります。2030年超えたあたりからピー

クになりますので、国が制度を変えようとしています。今から設置するものに対しては、外部の資金へ積み立てを行い、廃棄するお金をプールする仕組みを打ち出しています。

また、地方自治体へは、2030 年度までに公共施設の設置可能な施設に 50%太陽光パネルを付けるようになっていきますので、設置できる施設を調べていますし、太陽光パネルについても検討を行っています。

＜会長＞：基本事業①「環境保全」の CHECK に伊賀市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について書かれており、今後周知啓発を行っていくと書かれていますが、ACTION にどのような周知啓発をするかが書かれていないので教えてください。

また、緩和策については書いていただいています、適応策について、伊賀市としてどのように進めていくのかを教えてください。

＜人権生活環境部＞：温暖化対策の啓発は、従来のホームページや広報だけでなく、YouTube で「ゆっくり動画」を作成し、1 つ 1 つを見てもらいやすくしています。小学校・中学校向けに二次元コードを添付したチラシを配布して啓発したいと考えています。

＜会長＞：従来は、緩和策を作って来られたと思いますが、今後適応策を作ってもらおうと思います。

まだ具体的な事業まではいかないかと思いますが、どうやって適応するか考え方を市民の皆さんに共有してもらおうところから始めていただくかと思っています。

＜人権生活環境部＞：国で行っているデコ活や市民の方が取り組んでもらえることを周知することだと思います。

企業向けには、脱炭素の取組について、セミナーを通して、関わっていただくことで、色んな世代の意見を聞き出しながら、環境に関するお願いを相互で出来るような形を今後作っていきたいと考えています。

＜会長＞：お時間ですので、担当課の皆さん、今日はありがとうございました。

（事務局）：先ほど指摘がありました 2-6 「環境」と 2-7 「廃棄物」の内容について、2-7 「廃棄物」については、施設の関係で、ごみ処理施設のことを

	中心に書いています。工場を運営する施策と啓発を刷る施策に分かれているのが現状です。 <会長>：（１）事務事業の適正性について、Ａ評価が２人、Ｂ評価が４人ですので、Ｂですね。 <委員>：国の目標ではなく、三重県の一47%になぜできないのかというところでＢ評価です。 <会長>：自然豊かな伊賀ならではの野心的な目標設定をしてくださいということをグループとしての要望とします。 基本事業②「生活環境」で、環境指標を多面的に設定する方向性を示していただいたことは評価できます。 続いて、（２）事務事業の改善案の妥当性について、Ａ評価が１人、Ｂ評価が５人です。 <委員>：市民に啓発するとあったが、どんな意識になったか見えないので、改善出来たらそう書いていただきたいです。 <会長>：前年度、計画を策定されて、啓発を強化するチャンスだと思いますので、効果検証していただきたいと思います。 対策を強化するとなると懸念も出てくると思いますので、再エネ促進と環境への調和や、廃パネルの処理リサイクル、市としての考え方の発信について、施策シートから認められなかったということでＢ評価とします。 （３）施策の進捗状況は、全員がＢ評価です。着実に取り組んでいただいているが、市としてもう一歩前へという評価です。 <会長>：横ぐしを通した評価をしてもらいたいですが、どこが横ぐしを通すのか。例えば、環境関連の施策については環境分野の部局が旗振り役になるなどというふうに取り組んでほしいと思います。 <委員>：温暖化に関わることは、緩和も大事です、命にかかわることなので適応も大事です。今すぐ指標を変えて、横断的に変えることは難しいですが、分野で分けていた取り組みを一緒に行っていくという点で違和感なく進めることができる部分もあると思いますので、庁内の話し合いを通じて見直しを進めてほしいと思います。 では、続いての施策、説明をお願いします。
--	---

— 産業農林部「4-4 商工・労働」説明 —

＜委員＞：ふるさと納税について、リピーター数を見られていますが、数値は企業努力の部分が多いと思います。また、良いものは直接買うので、品目数の方が PR するときに良いかと思います。それでもリピーター数になった理由を教えてください。

また、起業雇用労働について、起業件数を指標としていますが、創業スクールで出会った中でも 1 年経たず廃業した方がいます。数年経って廃業は、向かなかったなどありますが、1 年以内に廃業は作る段階で理想と違ったり、教わることができたなら防げたこともあると思いますので、伴走支援などがあれば良いと思いました。

＜産業農林部＞：ふるさと納税をする時点で、地元貢献などのためにしているものだと思いますので、損得で考えると直接買うことになると思います。

市の取組に対しての指標として考えると、品数が増えることより PR も含めてリピーター数が増えることだと思います。

創業スクールを受けた方の廃業については、伊賀流創業忍者隊として相談に回り、補助金申請を受け付けています。スクールの後の創業支援もしているので、廃業については課題の 1 つでもありますし、1 年以内に廃業される方の理由があれば、商工会等にフィードバックしていく必要があると考えています。

＜委員＞：ブランド力を徹底して磨いていただきたいと思います。IGAMONO という認定商品だけでなく、体験も入れてほしいです。人が集まる仕組みがなければいけないと思います。宿泊単価の前にブランド力を上げること、そういった中で、どのような企業に来てほしいか戦略を立てることをお願いします。

＜産業農林部＞：市が何をするのが大事だと考えています。物産展も、企業が売り上げを高めるためにやっているわけではなく、ブランド力を上げることを注視していますし、忍者についても、集客しやすいコンテンツですので、本格的な忍者体験をできるということで差別化を図っています。企業についても、観光業だけでなく商工業や多岐にわたる連携が必要と考えています。

＜委員＞：ソフト事業が大事なので、指標にも入れてほしいと思います。コンテンツの開発などです。

＜委員＞：インバウンドと国内で分けるなど、どういうふうメニューを考えて取り組んでいくのか、どこが中心となって取り組んでいるのかは分かりませんが、従来の考え方だけでなく、客観的に見ることができる人を入れて、何か知恵を絞ってほしいと思います。

また、ベンチャー企業も増えていますが、どの分野が増えていてどの分野が増えていないかの分析をされていると思いますが、一般向けに分かりやすいよう PR してほしいです。

＜委員＞：企業の補助金は、他市から伊賀市で起業するということでも出ますか。

＜産業農林部＞：審査はしますが、市内で空き家を使って起業される方に補助金が出ます。

＜委員＞：伊賀市とコラボしている事業所数は増えていますか。

＜産業農林部＞：ふるさと納税の登録事業者数は増えています。品数が納税額に関わってきますので、中間事業者と市内の事業者に対して相談もありますし、営業もかけていただいています。令和 11 年にかけて経費率が 40 まで年々下がっていく予定ですので対応を考えています。

＜会長＞：では、担当課の皆さん、本日はありがとうございました。

効果検証の適正性について、A 評価がなし、B 評価が 5 人、C 評価が 1 人でした。

＜委員＞：市外の人にも PR していただけたと思います。伊賀ならではの取り組みを教えてほしいということで B 評価としました。

＜委員＞：情報発信について書かれてないと思います。抽象的ですので、指標でももう少し踏み込んだ方が効果が出てくると思います。

＜委員＞：万博での PR もいいですが、イベントですので、イベントは意識調査でも数値が測れますので、他の点で効果検証に紐づけてほしいと思いました。

また、SNS を使ったアプローチの仕方を見直してほしいと思います。

＜会長＞：B 評価とします。魅力をどう PR できているか、届いているのかの効果検証が見えてこない指摘をいただきました。

（２）改善案の妥当性については、全員 B 評価です。

＜委員＞：伊賀市の PR できるのではないかと思います。

＜委員＞：「努める」など書いていただけていますが、具体的な中身が見えないのでそこを書いていただきたいです。

＜委員＞：市民にとっては当たり前に思っていることを他所から見たら当たり前ではないということを分かっている人と一緒に取り組みを進めてほしいと思います。

起業に関するメリットについて分かりやすく伝えていく努力が必要かと思っています。

＜会長＞：どういうデータからどういう分析をして、どう施策に結び着いているかが見えないので十分な評価ができないということですね。

施策の進捗状況についても全員 B 評価です。

では、続いての施策、説明をお願いします。

— 産業農林部「4－5 観光」説明 —

＜委員＞：DMO の構成について、既存の観光協会以外にどんなメンバーがいますか。

＜産業農林部＞：伊賀市観光協会が母体で、伊賀市、上野商工会議所、伊賀市商工会、加えて、文化施設をうまく活用して進めていくということでオブザーバーで伊賀市文化都市協会も入っています。

＜委員＞：既存の枠組みの中で商品などを開発するのは厳しいと思います。宿泊業者について、民宿や民泊の方へは声掛けがないと思います。お客さんは何を求めているのかをアンケートを取り、ミスマッチが内容後からまたアンケートを取るなど、指標が必要だと思います。

未活用資源に対しお客さんが呼べる仕組みが必要だと思います。

＜産業農林部＞：伊賀市では、総務省の地域活性化起業人も入れています。現時点では NIPPONIA ホテルの運営会社と連携協定を結び、地域活性化起業人として派遣し、DMO に関する事業や商品に関する取組をさせてもらっています。

＜委員＞：この方を活用する場合、DMO に聞くのですか市ですか。

	＜産業農林部＞：市ですが、DMO と深くかかわっていただいています。 ＜委員＞：観光部局では NIPPONIA のデータが開示できないと聞いていますが、情報は取っていますか。 ＜産業農林部＞：入込数なのか稼働率なのか数字は変わってきますが、連携の中で情報は聞いています。ただ、開示できない企業情報もあります。 ＜委員＞：肝心な情報は共有した方がいいと思います。 ＜産業農林部＞：その点については、主担当が空き家対策課となっています。 ＜委員＞：そこを連携していただきたいです。広く受け入れる伊賀市になるためにも DMO だけでは難しいと思います。 組織化されているものを活用できる枠組みが必要だと思います。構成メンバーの中でデータの共有し、アプローチの方法や課題について知りたいです。 ＜委員＞：先日、イベントに関するトラブルがあった際、市としてパフォーマンス内容について関与できないと言われました。トラブルを収集する方法や対策する方法があってこそプロモーションだと思いますので取組はありますか。 ＜会長＞：一般論として、マネジメントする仕組みがあるかお聞きして良いですか。 ＜産業農林部＞：個々の事案は、組織の中で共有して考えていきたいと思います。 ＜委員＞：伊賀市にいながら伊賀市の良さを知らない人が多いと思います。食事もファミレスになってしまうのがもったいないです。プライドが感じられるような取り組みが足りていないと感じています。 ＜産業農林部＞：市では、令和4年度に観光振興ビジョンをたて、観光客だけでなく、地域の人々が地域の魅力を感じることができるようにやっています。市民に良さを知ってもらうため、昨年度3月に、いがこれ観光エキスポを開催しました。そういった取り組みを継続して、また力を入れて取り組んでいきたいと考えています。
--	--

＜委員＞：伊賀の外から来た方々との接点を作ってほしいと思います。

＜産業農林部＞：後期アクションプランで、観光に関わる人だけでなく、いろんな方の意見を聞きながら進めていきたいと考えています。

＜委員＞：年間の観光客が三重県全人口に匹敵する人が伊賀に来ると知りました。リピート率 52%はすごいと思いましたが、そこに魅力を感じて来られたのか、何かがあるから半数以上の方がまた来たのだと思いますが、そこが分かればいいと思います。何を強みにしていくか知りたいです。

また、一人当たりの使う金額が少ないと思います。それは宿泊しないからではないかと思います。こういった戦略があるか教えてほしいです。

＜産業農林部＞：リピーター率は来訪者のアンケートから取っています。160 万人全員に聞いているわけではありません。年代によって感じている魅力は違います。お子様連れの方は忍者関連が多いですが、ご高齢の夫婦であれば歴史・文化に関心があったりします。一概に特に何に関心があるという訳ではありません。

＜委員＞：JR 西日本と JR 東海と同じ席で会議することはありますか。

＜産業農林部＞：県が事務局をしている JR 関西本線観光利用促進協議会にて、関西方面から三重に来ていただくための会議があります。

消費単価についても、日帰り客は多いです。泊まっていただくことで消費単価が上がるということはあると思います。

宿泊者の消費単価は約 2 万円です。高付加価値商品もどうやって売っていくかも力を入れて取り組んでいきます。

＜会長＞：では、担当課の皆さん、ありがとうございました。

（１）効果検証の適正性については全員 B 評価です。

＜委員＞：課題は認識されていますが改善策に盛り込まれていません。

＜委員＞：言葉では説明されていますがそれが書かれていません。

＜委員＞：イメージだけで具体性がなく、何をどこでどうしているのかが分かりません。

＜委員＞：人員が足りていないと思いますので、行政だけでは難しく、枠組みを作る手法が必要だと思います。

＜委員＞：「計画通り進める」では説明責任が果たせていないと思います。

＜会長＞：市として何をするかを明確にさせていただき、CHECK を書いていただくということでB評価とします。

（２）事務事業案の妥当性については全員B評価です。

＜委員＞：数値では示されていますが、改善案が抽象的だと思います。

＜委員＞：指標の取り方がDMOに丸投げされているのは行政としていかがかと思います。

＜会長＞：市としての戦略を持って改善案を示してくださいということでB評価とします。

（３）施策の進捗状況についてもB評価とします。

— 会議室移動 —

4 閉会

— 新委員の紹介 —

＜会長＞：AグループとBグループ、別会場で評価を行いました、その感想や情報共有をさせていただければと思います。

＜副会長＞：施策に対するCHECK、CHECKに対するACTIONの評価を行いました。すると、CHECK欄で「～を行いました」などの実施事業の羅列が多くありました。新たな課題がなく、ACTIONが見えにくかったです。B評価がほとんどでした。行政の皆さんに施策評価シートについての認識が行き届いていないように感じました。

＜会長＞：B評価が多数を占める結果になりました。CHECKとACTIONの結びつきが分かりづらかったですが、直接聞くことで結び着く部分もありましたし、市民からの評価とはが違っている内部評価だったというような点も対面で行ったことで分かりました。

今回は抽出しての評価でしたが、人権・平和と同和や商工・労働と観光

	を別で評価しましたが、指摘事項や話題が共通していましたので、改善を図っていただきたいと思います。 では、進行を事務局にお返しします。 <u>5 その他</u> (事務局)：次回は7月17日(金)14時00分から16時00分です。AグループBグループ合同で、書面審査の結果と評価の報告を行います。17日(金)以降報告書をまとめ、メールでお送りします。ご了承いただけましたら答申とさせていただきます。以上です。 ありがとうございました。本日の会議を終了します。
--	--